



2023年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年8月5日

上場会社名 京福電気鉄道株式会社
コード番号 9049 URL <https://www.keifuku.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大塚 憲郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理部長 (氏名) 藤木 斉

TEL 075-841-9385

四半期報告書提出予定日 2022年8月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	3,399	36.3	459		494		285	
2022年3月期第1四半期	2,493		68		32		14	

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 332百万円 (%) 2022年3月期第1四半期 11百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	143.59	
2022年3月期第1四半期	7.05	

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前連結会計年度の期首から適用しており、2022年3月期第1四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年増減率は記載していません。

2. 対前年同四半期増減率が1,000%以上となる場合は「-」を記載しております。

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	19,831		8,425			38.3
2022年3月期	20,152		8,096			36.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 7,603百万円 2022年3月期 7,312百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期		0.00		0.00	0.00
2023年3月期					
2023年3月期(予想)					

(注) 2023年3月期の配当予想は未定であります。

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

2023年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な予想数値の算定を行うことが困難であるため未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	2,000,000 株	2022年3月期	2,000,000 株
期末自己株式数	2023年3月期1Q	12,315 株	2022年3月期	12,276 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	1,987,711 株	2022年3月期1Q	1,987,835 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

2023年3月期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な予想数値の算定を行うことが困難であるため未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。なお、業績予想に関する事項は2ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(追加情報)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間は、国内における経済活動に回復の兆候が見られたものの、ウクライナ情勢や円安進行等に起因するエネルギー価格や原材料費の高騰に加え、期の後半には新型コロナウイルス感染症の感染再拡大による下振れリスクも顕在化するなど、引き続き先行き不透明の厳しい状況下で推移しました。

当第1四半期連結累計期間の当社グループの営業収益は3,399百万円（前年同期比906百万円、36.3%増）となり、営業利益は459百万円（前年同期営業損失68百万円）となりました。これに営業外収益及び営業外費用を加減した経常利益は494百万円（前年同期比461百万円増）となり、特別利益及び特別損失ならびに法人税等を加減し、非支配株主に帰属する四半期純利益を控除した親会社株主に帰属する四半期純利益は285百万円（前年同期比271百万円増）となりました。

次に、セグメント別の状況をご報告いたします。

① 運輸業

鉄軌道事業、バス運送事業、タクシー事業ともに、新型コロナウイルス感染症拡大以前の売上水準を依然大幅に下回る、厳しい経営状況が続いています。

こうした中、嵐山線は、世界文化遺産高山寺拝観と嵐山線、西日本ジェイアールバスのご乗車をセットにした「鳥獣戯画きっぷ」をはじめ、沿線の史跡・観光施設とタイアップした各種セット券の発売など、情報発信と販売促進に取り組みました。京都バス(株)は旅客数の増加に加え、京都市バスとの共同運行路線の収入が増収に寄与しました。京福バス(株)は、生活路線を中心に需要の回復傾向がみられました。

以上の結果、運輸業の営業収益は1,588百万円（前年同期比361百万円、29.4%増）となり、営業損失は25百万円（前年同期営業損失282百万円）となりました。

② 不動産業

不動産販売事業におきましては、福井市足羽・新保において建売住宅「京福の家」を販売するなど、販売件数の増加により増収となりました。

不動産賃貸事業におきましては、「BOAT RACE（ボートレース）三国」では、プレミアムGIレース「マスターズチャンピオン」の開催などにより増収となりました。

以上の結果、不動産業の営業収益は1,514百万円（前年同期比413百万円、37.6%増）となり、営業利益は452百万円（前年同期比175百万円、63.4%増）となりました。

③ レジャー・サービス業

観光業では新型コロナウイルス感染症による深刻な影響が依然として継続していますが、ホテル京福福井駅前、三国観光ホテル、越前松島水族館とも積極的な販売活動・情報発信を実施し、利用客が増加しました。

以上の結果、レジャー・サービス業の営業収益は339百万円（前年同期比127百万円、60.3%増）となり、営業利益は31百万円（前年同期営業損失63百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、減価償却による固定資産の減少などにより、前連結会計年度末に比べ321百万円減少し、19,831百万円となりました。負債は、未払金や未払法人税等の支払などにより、前連結会計年度末に比べ650百万円減少し、11,405百万円となりました。純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ329百万円増加し、8,425百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年5月11日の「2022年3月期 決算短信」で公表いたしましたとおり、2023年3月期の第2四半期(累計)および通期の連結業績予想につきましては、現時点で合理的な予想数値の算定を行うことが困難であるため未定としております。今後、業績予想の開示が可能となった段階で、速やかに公表いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,719	1,876
受取手形及び売掛金	1,059	1,068
販売土地及び建物	111	45
商品及び製品	17	23
仕掛品	9	27
貯蔵品	45	41
前払費用	30	44
その他	895	651
貸倒引当金	△4	△3
流動資産合計	3,883	3,775
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,653	9,568
機械装置及び運搬具(純額)	1,189	1,140
土地	3,471	3,471
リース資産(純額)	806	774
建設仮勘定	53	31
その他(純額)	264	254
有形固定資産合計	15,438	15,241
無形固定資産	229	248
投資その他の資産		
投資有価証券	288	287
繰延税金資産	55	29
その他	258	249
貸倒引当金	△1	△0
投資その他の資産合計	600	566
固定資産合計	16,268	16,055
資産合計	20,152	19,831

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	48	49
短期借入金	3,550	3,513
リース債務	144	147
未払金	882	483
未払法人税等	337	142
未払消費税等	121	167
賞与引当金	202	86
その他	422	686
流動負債合計	5,710	5,277
固定負債		
長期借入金	4,195	4,012
リース債務	730	695
長期未払金	106	90
繰延税金負債	727	745
役員退職慰労引当金	24	21
退職給付に係る負債	269	272
その他	291	290
固定負債合計	6,345	6,128
負債合計	12,055	11,405
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	299	299
利益剰余金	5,952	6,238
自己株式	△20	△20
株主資本合計	7,231	7,516
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	81	86
その他の包括利益累計額合計	81	86
非支配株主持分	784	822
純資産合計	8,096	8,425
負債純資産合計	20,152	19,831

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
営業収益	2,493	3,399
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	2,537	2,917
販売費及び一般管理費	24	22
営業費合計	2,562	2,940
営業利益又は営業損失(△)	△68	459
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	5	6
助成金収入	99	33
雑収入	9	6
営業外収益合計	114	46
営業外費用		
支払利息	13	12
雑支出	0	0
営業外費用合計	13	12
経常利益	32	494
特別利益		
補助金収入	27	13
移転補償金	—	5
固定資産売却益	0	4
受取保険金	9	—
特別利益合計	37	22
特別損失		
投資有価証券評価損	—	9
固定資産除却損	1	5
特別損失合計	1	15
税金等調整前四半期純利益	68	501
法人税、住民税及び事業税	23	135
法人税等調整額	19	39
法人税等合計	43	175
四半期純利益	24	326
非支配株主に帰属する四半期純利益	10	41
親会社株主に帰属する四半期純利益	14	285

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	24	326
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△12	5
その他の包括利益合計	△12	5
四半期包括利益	11	332
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1	291
非支配株主に係る四半期包括利益	10	41

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,220	1,074	198	2,493	—	2,493
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	6	26	13	45	△45	—
計	1,227	1,100	211	2,539	△45	2,493
セグメント利益又は損失(△)	△282	276	△63	△68	0	△68

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	運輸業	不動産業	レジャー・ サービス業	計		
営業収益						
(1) 外部顧客への営業収益	1,582	1,490	326	3,399	—	3,399
(2) セグメント間の内部営業収益又は振替高	5	23	13	42	△42	—
計	1,588	1,514	339	3,442	△42	3,399
セグメント利益又は損失(△)	△25	452	31	458	0	459

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額0百万円はセグメント間取引消去額です。

2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。